

〔出席委員〕 小谷次雄、松本典子、西坂千代子、吉田知子、福田美紀、荒瀧美由紀、藤原彰二
新川裕二、永田彰寿、名越和範、笠見猛、山下千之、笠田直樹 (敬称略)

1 開会	
司会	(開会の宣言)
①委嘱状交付	
②開会挨拶	
会長	今年は、倉吉市教育振興計画を作り上げるという大きな仕事がある年だそうで、今日はそのことについての話し合いを行いたい。
司会	資料確認
2 報告(事務局より)	
事務局	資料説明 (1)平成27年度倉吉市教育委員会の重点施策に基づく実施計画について
3 協議	
事務局	資料説明 (1)第2期倉吉市教育振興基本計画作成について
会長	何か聞いてみたいことがあれば出していただきたい。
委員	事務局に尋ねる。小6の1月の学力調査結果と、中1の4月の学力調査結果とは同じ学年の結果なのに大きな違いがある点について話があったが、数値が下がったことについてどう分析できるかが大事だと思う。単に数字が上がった下がったではなく、どこに問題点があるのか。分析しているのであれば教えていただければ。 本来、児童生徒の能力に、なり年ということはない。高校では入ってきた時の生徒の力を、卒業までにどう伸ばしていくのか考えたときに、やはり教師の教え方が上手・魅力的であるということは大切である。ただ、そこを個人の責任にしまわれないように、教科全体として責任を持って努力していこうという取り組みをしたことがある。
事務局	全国学力学習状況調査は小6と中3で実施している。そこで、前年度の学年との比較で評価するのは不適切である。本市ではNRTでの経年比較を毎年している。小6と中1をうまくつないでいくのは課題である。中3の数学が上がったのは、組織だって、または力のある教員が引っ張るなどの仕組みが数学の教員はうまくいっているのかもしれない。エキスパート教員にも数学教員がいる。教員の力量向上という部分では、校内研究会指導助言に取り組んでいるが、県と協力しながら研究テーマに沿った授業研究会になるように、学校全体の力量が上がるよう指導している。次世代の子ども達の課題に対して取り組む方向性として、「活用型学力」「アクティブラーニング」などについても指導助言できるようにしていきたい。
委員	小6と中1の差については、大きな危機感はなくて静観ということか。
教育長	小6の1月にテストを実施し、その子達の中1の4月にテストを実施する。同じ子が3ヶ月でこれだけ落ちるのだろうかと思う。これは数年来同じ傾向にある。卒業のところで気が抜けてしまうのではないかという話があって、春休みに問題集をした学校は下がり方が少なかった。2週間でも影響してくることが分かった。
委員	高校では3ヶ月で5ポイント下がることがありうると考えている。上がるのはゆっくりだが下がるのは早い。手を抜くとすぐ下がる。
教育長	今、小中連携の取り組みで小学校の教員を1人加配している。具体的には、小6担任の先生に、卒業させた児童が中学校で適応できているかチェックしてもらっている。
委員	毎日2～3時間、数学の授業を中心に見てもらっている。成徳小の卒業生を中

	心に全体も見てもらっている。子どもたちにとっては、T2として授業に入ってもらっている。始めたばかりでまだ成果は出ていないが、いい方向でいけるようにしたい。
教育長	これは勉強の力だけではなくて、不登校対応を含めて研究してもらおうと考えている。今年は成徳小と東中だが、来年は学校を変えて実施する予定である。
委員	6年の早い段階で、中学生を意識して将来目標の位置づけを明確に持たせるようなことが必要だと思う。6年の1学期の間にそんなことができれば。確かに、3月の段階は傍目から見ても児童はゆっくりしている。
会長	学力検査の内容が、小6では6年生だけの内容で、中1では小学校全体6年間の内容になっている。そのあたりも多少あるかもしれない。 では、これからグループ討議に移る。その中で、思いや質問などを出し合っていたきたい。
事務局	グループ編成の提案 ①荒瀧委員、福田委員、永田委員、新川委員（学校・PTA） ②小谷会長、山下委員、笠見委員、笠田委員（地域） ③名越委員、松本委員、西坂委員、吉田委員、藤原委員（その他）
グループ討議（30分）	
会長	では全体報告をお願いしたい。
委員	学力向上については、家庭の方で生活習慣をサポートする「生活の土台作り」が大事ではないか。小6の3学期の授業は中学校をイメージした取組が必要ではないか。教科担任制をとっていくのも1つの方法かもしれない。ゲームやケータイを市全体としてルールを決めることがとても大事ではないか。個々の家庭だけに任せるのは難しい状況がある。米子市ではすでに導入している。個々の単Pでもあるところもある。また、情報モラルの職員・保護者の研修も必要である。 不登校については、保幼小中の連携が必要になってきている。子ども家庭課も絡めた一貫した連携をお願いしたい。道德の教科化にともなって、授業改善についての取り組みをしていく必要がある。 たくましい体については、中学生でも25m泳げない子どもがいるようだ。選手育成だけに頑張り過ぎて全体のレベルが上がっていないのではないか。全員が最低何m泳げるようにということを確認する必要がある。柔軟性が弱いことについては、どうしても室内で遊ぶことが多いので、外で遊ぶ体験や運動をする環境を整えていく必要がある。例えば、市民が陸上競技場を自由に使えるとか。反面、施設利用のきまりが守れなくて学校に電話がかかってくることもあったので、地域で見守る分との兼ね合いが難しい。
委員	いろいろな問題が、行き着くところは家庭かなと思う。しかし、家庭に押しつけるわけにはいかない。地域でどういう子どもたちを育てたいかを、家庭と一緒に共通理解をして、自立心のある子どもを育てていく体制をつくらねば。子育てに関わって、PTAに先輩の知恵を入れていくしかけが必要なのでは。今の子どもたちは社会体験・生活体験が貧しい。地域の人々の知恵やともに体験してくださる人を発掘していくことが必要である。子どもたちに、人間としてどう生きていくのかという良いモデルを見せなければ。そのために、地域が旗印を掲げて「皆でやろう」という雰囲気や、多世代と出会いを作って子どもたちに体験させるというしくみをつくっていかねば。 課題となるPTAの育成では、9年間を見通した研修計画を立てていってはどうか。何ととっても、子どもたちの自尊感情・自己肯定感をどう育んでいくのが重要なところ。例えば、PTAの学級懇談に先輩の保護者に入ってもらおうとか。社会教育と学校教育とがもっとしっかりかみあって、お互いが補完し合えるような関係に。倉吉市は学校ボランティアが非常に多いので、その有効活用を進めていかねば。子ども達に将来の展望をもたせる、自分はどう生きていくのかということを真剣に考えさせる場を設定して、自覚を促す。お互いが責任を持ち合

	<p>って、子どもに何が必要かという体験を与えていく環境整備が必要である。</p> <p>「働ける人間。税金を納められる人間。」が行き着くところの目標かなと思う。学校は行って楽しいという魅力があるところであるべきだし、家はホッとできる場所であってほしいし、こんな地域なら住みたいとなれるように地域に、私たち大人が努力していかねばならないし、地域の人にも宣伝していかねば。親にも「一緒にしようや楽しいで」と発信していかねばと思う。</p>
委員	<p>学力向上について、メディア利用時間多いことがあげられていたが、利用しすぎている子どもだけが問題ではなくて、大人も危険性が分かっていないのでは。子ども達には、たくさんのメールを返すのに大変で勉強時間もないという実態がある。「多くの人」と「いつも」つながっていることがいいことだという感覚があるのではないか。ごく一部でもいいから親友があることが大切なのに、数多くつながっていれば満足するという精神構造になっているのが問題ではないか。</p> <p>「勝ち負けにこだわる」とか「目立てばいい」ということが一番の価値観になってはいないか。なぜそうなるのかというと、自尊感情が十分に育まれていないためではないか。学力向上は、家庭学習時間が少ないから問題ということではなさそう。</p> <p>小学校英語の教科化にどう対応していくかが今後の課題である。英語の全国学力調査をした結果、点数が高い低いだけが問題ではない。私たち日本人で問題になっているのは、ある程度英語を長く学んできたのに話せない聞き取れないということである。そのハードルが低くなればいいということになると、はたして日本人の教員で子どもが発音を聞き取れるようになるのか。話せるようになるのか。理想的にはネイティブの人がやればいいと思うが、聞く・話すのハードルを下げるのを目標にしながらやってほしい。コミュニケーションをとるときに大事なのは意欲と中身。あいさつだけでなく、内容を作っていく教育が求められるのではないだろうか。まずは日本語で発表できる力の育成に力を入れること。そういうことが英語の教科化に伴って必要ではないか。</p>
会長	<p>焦点が様々であったが、全体的に意見はないか。</p>
教育長	<p>一旦まとめてお返しして、また御意見をいただくというやりとりを何回かしていきたいと思う。</p>
事務局	<p>資料説明</p> <p>(2) 倉吉市立小・中学校の適正配置について</p>
教育長	<p>付け加えて、人数の表を見てもらうと、上小鴨が6年後には62人、次は59人という数字が出てくる。ここまで来ているということを知らせながら、「どうされますか」ということを述べていかねばと思っている。予想していた推計値以上に減り方が厳しい状況にある。成徳も100人を切る状況にある。</p>
会長	<p>何か質問はないか。さしあたっては、関金小学校・山守小学校の統合が来年4月に開校を目指して進んでおり、これが市内の1つのモデルとなりそうだが。</p>
委員	<p>倉吉市の1校目になるのでいい形で進めなくてはと言いつつも、両地域にはいろんな思いがある。</p> <p>関金小のハード面にみんなが不満を持っている。「意見をたくさん言っていけない」という意見がある。しかし、「統合に間に合うのか。きっと、多分開校には間に合わない。」という意見もある。市民全体で興味を持ってもらって、「いい形で統合したんだって」という形を進めてもらいたい。</p>
教育長	<p>先日、船上小学校・聖郷小学校に、統合準備委員会の皆さんと先進地視察をしてきた。オープンスペースを改修した教室を見てきた。ハード面の不満は市教委も聞いている。しかし、4月までに改修するのは難しい。今年は設計をして、28年度の夏休みの工事をする予定である。</p>
会長	<p>こういうことは保護者の力が大きい。子どもの気持ちをしっかり聞いてもらって、子どものためになるようにしてほしい。</p>
4 閉会	

